

で、左岸を搦いて下る。この下はゴルジュとなってナメとカマがある。F4は右岸をへつり、続くカマは水の中へジャブジャブ入って通過する。このあとしばらくは平凡な沢歩きが続いた。

やがて右岸に岩場が現われ、チョック滝とF1が出てきた。これを過ぎると二俣。左俣との出合で、今朝方遡行してきた所を吊橋まで下って、沢から上がる。

(記)

[タイム] 下降開始(12:30)→左俣出合(16:25)→吊橋(17.00)

中ノ沢

1983年8月28日

上田ダムから只見川左岸の道を歩いて出合につく。7:10遡行開始。

出だしからゴルジュとなり、小滝がかかる。4 m。左岸をシャワーで越える。最初のゴルジュに滝はこれ1つきりでその上のチョックストーン滝を越えると、沢は明るくなった。

それもつかの間、すぐまた第2のゴルジュとなる。ここのゴルジュには小滝が続く。まず出だしの2 mはシャワーで突破。中程の5 mは右岸の草付を登る。難しい滝というのはないのだが、次々と小滝が出てくる。

続く第3のゴルジュも同様に小滝が続くが、ここの最後には10mの滝が待っている。登れるかもしれないと思ったが、安全にやろうということで、右岸を搦いて上に出る。

左岸からルンゼを合わせた先にもまたゴルジュが出てきた。ここの圧巻は連続する2つの10m滝である。登れそうにないので搦くことにするが、右岸のいやな草付、距離にして2 m程の間が少しやっかいだった。上の10m滝は左岸ブッシュ帯を搦く。

これでこの沢の核心部は終わった。左岸から支流を1本合わせた後小滝をいくつか越えると、平凡な沢筋となって、しばらく続く。9:10水量も極端に減り、完全に源流のよそおいとなってきた所で、カモシカの足跡のいっばいついた支沢に入って、867mピークをめざす。

(記)

[タイム] 出合(7:10)→沢終了(9:10)→尾根(9:40)

久保沢(下降)

1983年8月28日

L

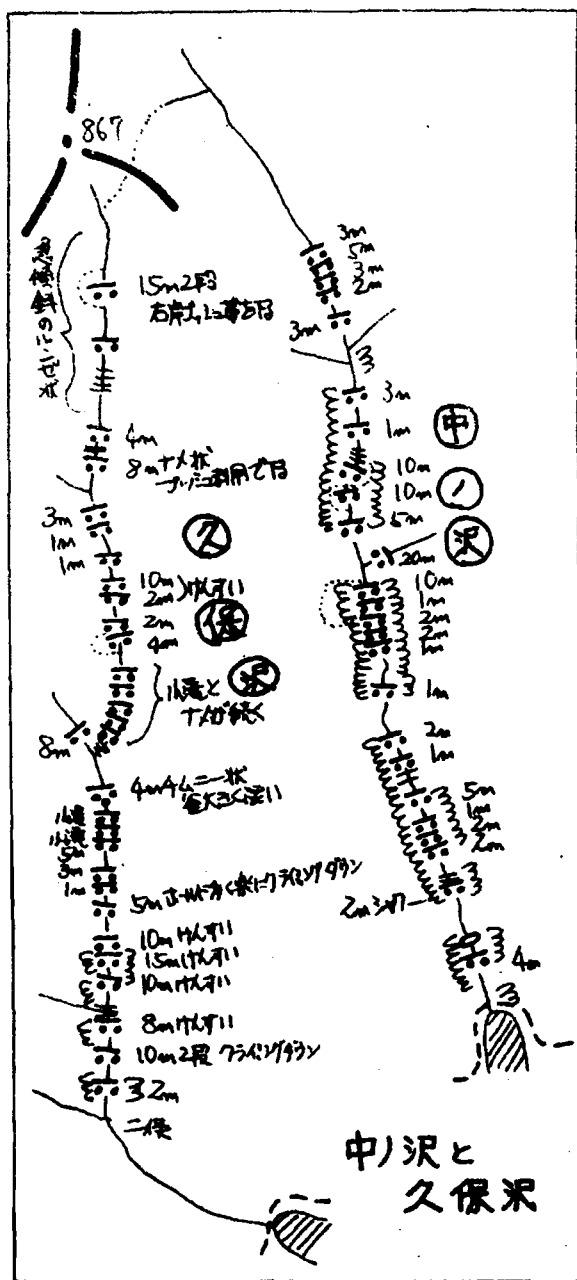
867ピークのやや東側の尾根上で小休止して、9:50下降開始。尾根上から見た感じでは、なだらかな沢筋が流れていて、簡単に下りそうに思え、5回も懸垂下降を

やる破目になろうとは、予想もできなかった。

9:50下降開始。心配していたスラブもなく、20分程やぶをこいでルンゼ状となった小沢に降り立つ。すぐ15m 2段の滝。右岸のブッシュ帯を下る。普通なら幸先がよいと喜ぶところなのだが、なにせ尾根から見た感じが、最初の急傾斜面を過ぎるとあとはなだらかに続いているように見えたものだから、別にどうという感じももたずに下ってしまった。

ところがである。この先、次々と小滝が出てくるではないか。ナメもはさまり、朝がた登っていった尾根1本隔てただけの隣の無名沢とは、全く溪相が異なっている。深い釜もある。ワラジのフリクションをきかせたり、ブッシュ利用でそれほどの苦勞もなく下降できるが、それなりに楽しめる。

「この際だから大きな滝が出てきたら懸垂で下ろう。」と話していたら、出てきました10mの滝。右岸のブッシュ帯を下れないことはなかったが、そこは冒険心旺盛



な我々のこと、さっそくザイルを出して懸垂下降。経験のない内海君は少しちゅうちよしたが、意を決して下降。もちろんこの時は、この後4回も懸垂を繰り返すことになるとは夢にも思わなかった。